

ITA\_システム構成/環境構築ガイド

Ansible-driver編

*－*第1.10版*－*

Copyright © NEC Corporation 2020. All rights reserved.

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

* LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
* Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
* Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
* Oracle、MySQLは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
* MariaDBは、MariaDB Foundationの登録商標または商標です。
* Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
* AnsibleTowerは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
* Ansible Automation Controllerは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
* Ansible Automation Pratformは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

※「Ansible Tower」はAnsible Automation Pratform2.0以降で「Ansible Automation Controller」に名称が変更になりました。本書での「Ansible Automation Controller」の記載は、「Ansible Tower」も含めた記載となっています。

目次

[はじめに 3](#_Toc101534215)

[1 機能 4](#_Toc101534216)

[2 システム構成 5](#_Toc101534217)

[3 システム要件 6](#_Toc101534218)

[4 Playbook連携 7](#_Toc101534219)

[5 初期設定 8](#_Toc101534220)

[5.1. 共有ディレクトリの準備 8](#_Toc101534226)

[5.2. ITA作業用ディレクトリの準備 8](#_Toc101534227)

[5.3. ITA作業用ディレクトリの公開 9](#_Toc101534228)

[5.4. Ansible Automation Controllerへのファイル転送ユーザーの準備 9](#_Toc101534229)

[5.5. Ansible Automation Controllerと連携するGitへのユーザーの準備 10](#_Toc101534230)

[5.6. パッケージ確認 10](#_Toc101534231)

[5.7. 必要リソース準備 11](#_Toc101534232)

[5.7.1アプリケーション 11](#_Toc101534233)

[5.7.2ユーザートークン 11](#_Toc101534234)

[5.8. Proxyの設定 12](#_Toc101534235)

# はじめに

本書では、ITAでAnsibleオプション機能（以下、Ansible driver）として運用する為のシステム構成と環境構築について説明します。

ITA　Ansible driverを利用するにあたっては、ITA基本機能が構築済であることが前提です。ITA基本機能の構築に関しては、「システム構成／環境構築ガイド\_基本編」をご覧ください。

# 機能

Ansible driverは以下の機能を提供します。

表 1 機能名

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| No | 機能名 | 用途 | WEB  コンテンツ | BackYard  コンテンツ |
| 1 | Ansible driver | ITAからansibleかAnsible Automation Controllerを介してサーバ、ストレージ、ネットワーク機器の構成管理を行う | ○ | ○ |
| 2 | Ansible RestAPI | Ansibleを外部から操作するためのRestAPIを提供するコンテンツ | ○ | － |

# システム構成

Ansible driverのシステム構成は、ITAシステムと同じです。

Ansible RestAPIについては、Ansible driverとは別にAnsible専用サーバを用意する構成が考えられます。また、Ansible Automation Controllerは専用サーバを用意する必要があります。

(ITAとAnsibleCoreを一つのサーバにコンソリデーションする構成も可能です。)

ここでは、ITAシステムの推奨構成であるバランスHA型にAnsible RestAPIサーバを付加した構成を図示します。

※ ここでは省略した構成図を記載します。詳しくは「システム構成／環境構築ガイド\_基本編」を参照してください。

Ansible RestAPI

Ansibleサーバ

**AnsibleAPI**

**機能**

Ansible Core

ITAシステム/Ansible driver

Backyardサーバ [SBY]

Web/APサーバ [ACT]

Web/APサーバ [ACT]

Web

機能

Web/APサーバ [ACT]

DB接続情報

**Ansible**

**driver**

ロードバランサー

Backyardサーバ [ACT]

構成対象機器

NW機器

セッション

管理

アップロード

ファイル

BackYard

機能

サーバ

DB

DBMS

ストレージ

**Ansible**

**driver**

DB接続情報

外部設置データ

ITAシステム/Ansible driver + Ansible Automation Controller

Ansible RestAPI

Backyardサーバ [SBY]

Backyardサーバ [ACT]

Web/APサーバ [ACT]

Web/APサーバ [ACT]

Web

機能

Web/APサーバ [ACT]

DB接続情報

**Ansible**

**driver**

ロードバランサー

Ansibleサーバ

ひ

Ansible Automation Controller4.xの場合

外部設置データ

Git

DB接続情報

BackYard

機能

**Ansible**

**driver**

セッション

管理

アップロード

ファイル

DB

DBMS

Ansible Automation Controllerサーバ

**AnsibleAPI**

**機能**

Ansible Core

構成対象機器

NW機器

サーバ

ストレージ

SCM管理

ITA作業用ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ

# システム要件

Ansible driver はITAシステムのシステム要件に準拠するため、「システム構成／環境構築ガイド\_基本編」を参照してください。ここではBackYard、Ansible RestAPI、Ansible Automation Controllerの要件を記載します。

●BackYard

表 3-1.Ansible BackYard必要Linuxコマンド

|  |  |
| --- | --- |
| **コマンド** | **注意事項** |
| zip |  |

表 3-2.Ansible BackYard必要外部モジュール

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **外部ﾓｼﾞｭｰﾙ** | **バージョン** | **注意事項** |
| php-yaml | 2.1.0 以上 |  |

●Ansible RestAPI

表 3-3 Ansible RestAPI システム要件

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **パッケージ** | **バージョン** | **注意事項** |
| Ansible | 2.5 以上 |  |
| Python | 3.0 以上 |  |
| pywinrm |  | Pythonモジュールです。Yumでインストールできない場合、pipを使用してインストールしてください。 |
| Pexpect |  | Pythonモジュールです。 |
| telnet | － | 構成対象にtelnet接続する場合に必要です。 |
| Apache | 2.2系 / 2.4系 | ITAシステムと異なるサーバで運用の場合に必要です。  パッケージ/バージョンはITAシステムサーバに合わせてください。 |

表 3-4 Ansible Driver必要Linuxコマンド

|  |  |
| --- | --- |
| **コマンド** | **注意事項** |
| expect |  |

●Ansible Automation Controller

表 3-5 Ansible Automation Controllerシステム要件

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **パッケージ** | **バージョン** | **注意事項** |
| Ansible Tower | 3.5.0以上 | 3.5.0以前のバージョンでユーザー/パスワードによる認証方式には対応できません。 |
| Ansible Automation Controller | 4.0.0以上 |  |

# Playbook連携

ITAとAnsible RestAPI 及びAnsible Automation Controller間のPlaybook連携について説明します。

Ansible RestAPI

ITA

Playbook一式

DB

①

ｺﾝﾃﾝﾂﾌｧｲﾙ

Playbook一式

共有ディレクトリ

②

Playbook一式

1. Playbook一式を抽出し共有ディレクトリに展開
2. RestAPI経由でPlaybook一式が格納されている共有ディレクトリを通知

図4-1 ITAとAnsible RestAPI間のPlaybook連携図

ITA

Ansible Tower3.x

Playbook実行に  
必要なデータリソース

Playbook一式

Playbook一式

DB

②

①

ITA作業用ディレクトリ(/var/lib/exastro)

ｺﾝﾃﾝﾂﾌｧｲﾙ

③

1. Playbook一式を抽出する
2. RestAPI経由でPlaybook実行に必要なデータリソースの生成
3. Playbook一式をITA作業用ディレクトリとSCM管理ディレクトリにファイル転送(scp)

SCM管理ディレクトリ(/var/lib/awx/projects)

図4-1 ITAとAnsible Tower3.x間のPlaybook連携図

Ansible Tower3.xではSCMタイプを「手動」で行っていましたが、Ansible Automation Controller4.xではSCMタイプを「手動」にして各データリソース登録と実行を連続して行うと実行時にエラーとなる事象が発生するようになったため、Gitを介してPlaybook一式を連携するSCMタイプ「Git」に変更しています。

ITA

Ansible Automation Controller4.x

③

Playbook実行に  
必要なデータリソース

Playbook一式

DB

Playbook一式

①

SCM管理ディレクトリ(/var/lib/awx/projects)

④

②

ｺﾝﾃﾝﾂﾌｧｲﾙ

1. Playbook一式を抽出する
2. Playbook一式をAnsible Automation Controllerと連携するGitリポジトリを作成
3. RestAPI経由でPlaybook実行に必要なデータリソース(Git接続情報を含む)の生成
4. Playbook一式をITA作業用ディレクトリにファイル転送(scp)
5. ITAに作成されているGitリポジトリをSCM管理ディレクトリに連携

⑤

Gitﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘ

ITA作業用ディレクトリ(/var/lib/exastro)

図4-3 ITAとAnsible Automation Controller4.x間のPlaybook連携図

# 初期設定

Ansible RestAPI 及びAnsible Automation Controllerインストール後、実行エンジンに応じて各設定を行って下さい。

表 5 実行エンジンに応じた設定一覧

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 設定項目 | 実行エンジン | | |
| Ansible Core | Ansible Tower3.x | Ansible Automation Controller4.x |
| 共有ディレクトリの準備 | 〇 | × | × |
| ITA作業用ディレクトリの準備 | × | 〇 | 〇 |
| ITA作業用ディレクトリの公開 | × | × | 〇 |
| Ansible Automation Controllerへのファイル転送ユーザーの準備 | × | 〇 | 〇 |
| Ansible Automation Controllerと連携するGitへのユーザーの準備 | × | × | 〇 |
| パッケージ確認 | × | 〇 | × |
| 必要リソース準備 | × | 〇 | 〇 |
| Proxy設定 | × | × | △ |

〇:必須　×:不要　△:必要に応じて



## 共有ディレクトリの準備

ITAとAnsible RestAPIからアクセス可能な共有ディレクトリを準備してください。

ITAとAnsible RestAPIをインストール後、この共有ディレクトリをITAシステムに登録する必要があります。「利用手順マニュアル\_Ansible-driver」の「インターフェース情報」を参照し、登録を行ってください。

## ITA作業用ディレクトリの準備

Ansible Automation ControllerサーバにITA作業用ディレクトリを作成してください。

クラスタ構成の場合は、構成している全てのサーバにディレクトリを作成して下さい。

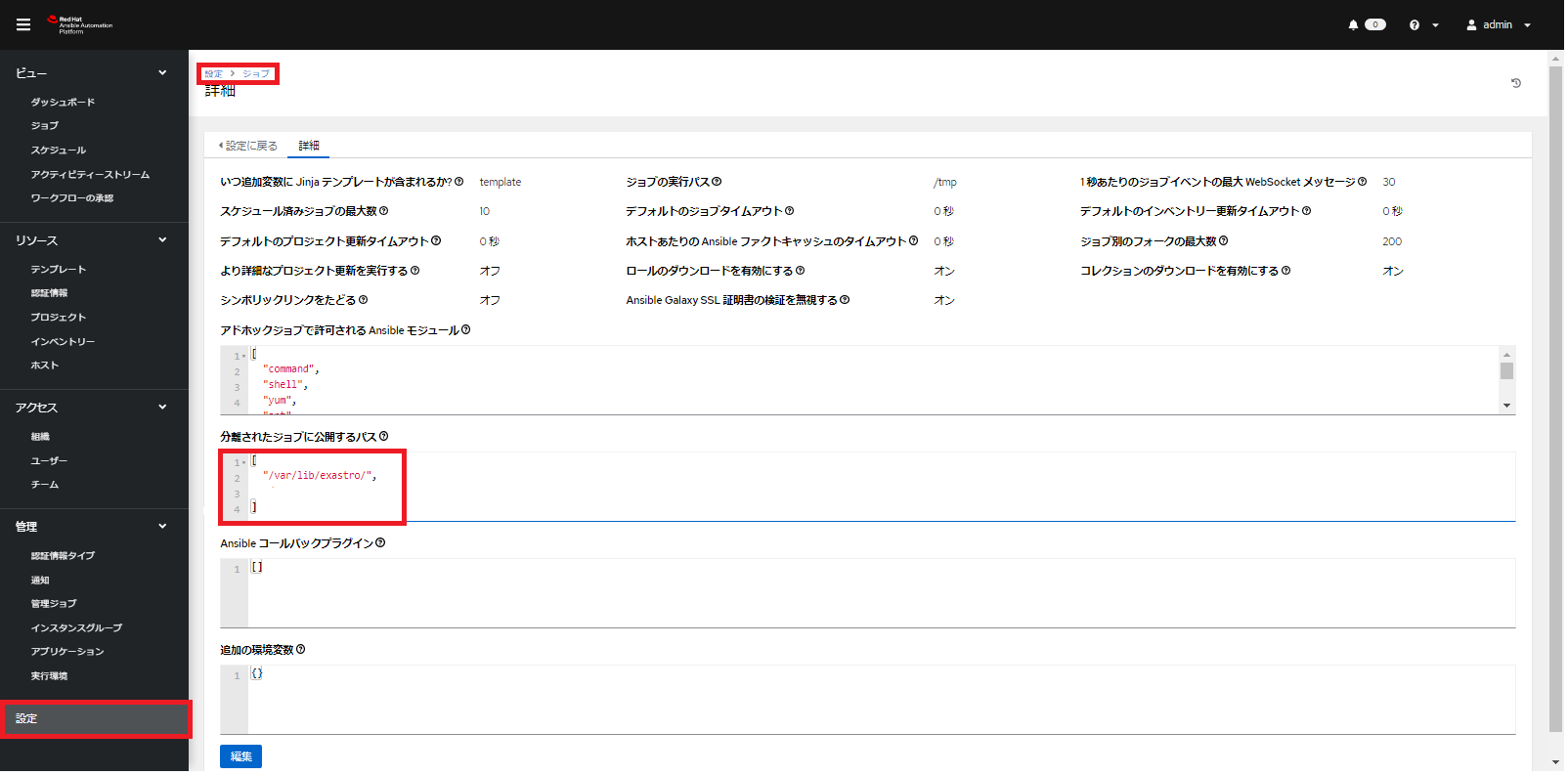
ただし、Ansible Automation Controllerのhop nodeにはディレクトリ作成不要です。

表 5.1-1 ITA作業用ディレクトリの作成情報

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 設定値 |
| ディレクトリパス | /var/lib/exastro |
| オーナー・グループ | awx:awx |
| パーミッション | 0755 |

## ITA作業用ディレクトリの公開

ブラウザよりAnsible Automation Controllerにログインし、「設定」→「ジョブ」→「分離されたジョブに公開するパス」に「/var/lib/exastro/」を設定します。



## Ansible Automation Controllerへのファイル転送ユーザーの準備

ITAからAnsible Automation Controllerのプロジェクトを生成する際、Ansible Automation Controllerの下記ディレクトリにPlaybook一式をファイル転送します。ファイル転送するLinuxユーザーを準備して下さい。

・SCM管理ディレクトリ(/var/lib/awx/projects)

※Ansible Tower3.xの場合にLinuxユーザーでPalybook一式をファイル転送します。

・ITA作業用ディレクトリ(/var/lib/exastro)

Linuxユーザーは、Ansible Automation Controllerインストール時に生成されるawxユーザーにパスワードを設定し使用することを強く推奨します。また、awxユーザー以外のユーザーを用意し使用する場合、SCM管理パス(/var/lib/awx/projects)のパーミッションの変更はRedhatのサポート対象外となりますのでご注意下さい。

準備したLinuxユーザーは、ITAシステムに登録する必要があります。「利用手順マニュアル\_Ansible-driver」の「Ansible Automation Controllerホスト一覧」を参照し、登録を行ってください。

## Ansible Automation Controllerと連携するGitへのユーザーの準備

ITAからAnsible Automation Controllerのプロジェクトを生成する際のSCMタイプをGitにしています。

連携先のGitリポジトリは、Ansible driverのバックヤード機能がインストールされているホストに作成されます。Ansible Automation Controllerから、このGitリポジトリにssh鍵認証で接続するLinuxユーザーを準備して下さい。  
準備したLinuxユーザーは、ITAシステムに登録する必要があります。「利用手順マニュアル\_Ansible-driver」の「インターフェース情報」の「SCM管理 Git連携先情報」を参照し、登録を行ってください。

尚、ITAインストーラを使用してITAインストールまたはV1.10.0以降へのバージョンアップをした場合、Gitリポジトリに接続するLinuxユーザーと鍵ファイルを生成し、「インターフェース情報」の「SCM管理 Git連携先情報」の「ユーザー」、「ssh秘密鍵ファイル」を初期設定しているため、個別に作成は不要です。「ホスト名」にAnsible driverのバックヤード機能がインストールされているホスト名（またはIPアドレス）を設定して下さい。

別のユーザーを使用する場合は、Linuxユーザーと鍵ファイルを生成し「インターフェース情報」の「SCM管理 Git連携先情報」を更新して下さい。

表 5.4-1 ITAインストール時に生成されるssh鍵認証用Linuxユーザー情報

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 項目値 |
| ユーザー | awx |
| パスワード | 未設定 |
| 秘開鍵 | /home/awx/.ssh/rsa\_awx\_key |
| 公密鍵 | /home/awx/.ssh/rsa\_awx\_key.pub |

## パッケージ確認

Ansible-driverで必要なパッケージがインストールされているかを確認します。

インストールされていない場合は、パッケージのインストールが必要です。

●必要なパッケージ

pexpect

●確認方法

su - awx

source /var/lib/awx/venv/ansible/bin/activate

pip list

deactivate

●インストール方法

su - awx

source /var/lib/awx/venv/ansible/bin/activate

umask 0022

pip install --upgrade pexpect

deactivate

## 必要リソース準備

Ansible Automation Controllerに認証アプリケーションをあらかじめ登録しておく必要があります。

表 5.7-1. Ansible Automation Controller 必要リソース一覧

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **種類** | **用途** | **名前** | **説明** |
| アプリケーション | 認証アプリケーション | o\_auth2\_access\_token | ITAからAnsible Automation ControllerにRestAPIで接続する場合の認証用のアプリケーション情報 |
| ユーザー | トークン | - | ITAからAnsible Automation ControllerにRestAPIで接続するのに使用する接続トークン |

5.7.1アプリケーション

* Ansible Automation Controller設定値
* 名前 ：　o\_auth2\_access\_token
* 組織 ：　Default
* 認証付与タイプ ：　リソース所有者のパスワードベース
* クライアントタイプ ： 機密

5.7.2ユーザートークン

* Ansible Automation Controller設定値
* APPLICATION ：　o\_auth2\_access\_token
* SCOPE ：　書き込み

Ansible Automation Controllerのログインに使用するユーザーでログインしておく必要があります。

生成されたトークンは、Ansible共通コンソールのインタフェース情報の接続トークンに設定する必要があります。「利用手順マニュアル\_Ansible-driver」の「インタフェース情報」を参照し、登録を行ってください。

## Proxyの設定

Ansible Automation Controllerの設定に応じて作業実行時などにRedhat社の所定のサイトより実行環境のコンテナイメージのダウンロードが行われます。

Ansible Automation ControllerがProxy環境下にある場合、Ansible Automation ControllerにProxy設定が必要です。Proxyの設定がされていない状態で作業実行を行った場合、エラー原因が取得できない場合があります。

ブラウザよりAnsible Automation Controllerにログインし、「設定」→「ジョブ」→「追加の環境変数」に「"https\_proxy": "http://<Proxy IP>:<Proxy port>/"」を設定します。

